

広報

中部の森林

もりもり

迎春

写真：「中央アルプス千畳敷から、南アルプスと富士山の御来光」(南信署管内)

私の森語り「愛と木で作るおもちゃ屋さん」
Turtle Valley Toys Scott Wolak

令和4年 年頭のご挨拶

・中部森林管理局長 上 練三

各地からの便り

・天皇陛下御即位記念分収造林の契約調印式を開催 ほか

シリーズ

・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

※ 令和4・5年度「国有林モニター」の募集のお知らせ!



2022/No.214



林野庁中部森林管理局



林業サイクルの実現に向けて

中部森林管理局長 上 練三

令和四年 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとございます。皆様方におかれましては、令和四年の初春を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

今年こそは、コロナ禍のない、平穏で輝かしい年になることを願ってやみません。

さて、中部局としましては、昨今、山地災害が激甚化する中、急峻な地形が多い管内の状況を踏まえ、地方公共団体等との連携を密にしながら、災害時の緊急対応、災害復旧をはじめ適切な治山対策の実施に全力を上げてまいります。

また、引き続き間伐等の森林整備

備を着実に進めます。循環可能な

条件の林地では、資源利用と同時に、速やかに次代を造成すること

が、木材加工産業とつながる林業サイクルを持続していくための「タネ蒔き」になります。当局で

の伐採・造林一貫作業の割合は皆伐面積の八〜九割に達していま

す。造林初期の地拵への労働負担軽減、期間短縮等を実現するこの

取組に加えて、将来を見据え、林業イノベーションの取組を国有林

現場への適用や民有林内への技術支援に向けて、更に段階を進めます。新しい林業を目指し、エリー

トツリー特定母樹由来の苗木が円滑に利用されるよう、その普及や供給に向けた支援にも取り組みま

す。

木材供給では、システム販売による一般材の計画的・安定的な供給を引き続き進め、国産材利用の

要望に応えてまいります。また、当局の強みとも言える^{まろく}高^{まろく}国^{まろく}木^{まろく}曾^{まろく}ヒ^{まろく}ノキ^{まろく}や段戸SAN、信州プレミア

ムカラマツ等の優良材生産のほか、特殊な寸法・品質の木材需要にも

応えらるとともに、市町村等と連携しながら、そのニーズの早期把握に努めます。天然木曾ヒノキに代

表される優良材は、先人の工夫と技術があつて生産・流通してきた

長い歴史を有しています。一昨年から1年間、その内容を記した「木曾式伐木運材図会」を当誌で

連載・紹介してまいりましたが、昨年十一月、連載内容に大正から昭和初期の古写真を追加した小冊

子を作成しました。小冊子は、当局ホームページにも掲載しておりますのでご覧下さい。

<https://www.rinyamaff.go.jp/chubu/koho/kisokibatubokuh.html>

さらに、管轄面積の半分が国立公園等という特徴も踏まえ、自然休養林等と併せて、多様な森林を利用して癒しの空間を提供することに加え、その利用を観光や人材育成等につなげる森林サービス産業の構築に貢献する考えです。

ウッドショックと言われる現状の状況をチャンスと捉え、今年が、管内四県の林業・木材産業、ひいては地域経済にとつてのジャンプアップの年となるよう、当局として貢献してまいります。

結びに、皆様方の益々のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます。



《各地からの便り》

天皇陛下御即位記念分収造林の契約調印式を開催

【森林整備課】

十二月九日、中部森林管理局大会議室において、天皇陛下御即位記念分収造林に係る契約調印式を行いました。契約いただいたのはサミット半田パワー・西垣林業共同事業体で、今回の記念分収造林としては、当局管内で三件目の契約となります。

本共同事業体は、サミット半田パワー(株)と西垣林業(株)が共同で分収造林に取り組むことを目的として結成したのですが、このような共同事業体との分収造林契約は、国有林では初めての事例となっています。

調印式は、上練三中部森林管理局長と共同事業体代表者のサミット半田パワー(株)大場渉代表取締役による契約書の取り交わしに続き、当局長から大場代表と西垣林業(株)西垣雅史代表取締役社長へ、分収造林により健全な森林づくりを推進していただくことへの謝意として感謝状を贈呈しました。



契約調印式後の記念撮影

契約箇所は、愛知森林管理事務所管内の段戸国有林で、面積約五畝の区域にスギを植栽する予定としています。

調印後契約者から、「分収造林は長期に亘る契約であり、森林の成長と共に会社も成長しつつ、脱炭素社会の実現や地域振興に寄与したい。」との挨拶がありました。

なお、天皇陛下御即位記念分収造林は令和三年度で終了となりますが、分収造林については引き続き契約に向け、積極的に取り組むこととしています。

「ぎふ優良材展」へ出品 トチノキを高額販売

【東濃森林管理署】

十一月十一日、岐阜県森林組合連合会が主催する第九回「ぎふ優良材展」が恵那市の東濃林産物共販所において盛大に開催されました。

県内の民有林と国有林から約三千立方メートルの優良材が集められ、当署からは八十年生以上の高齢級ヒノキ(高木曽ひのき(東濃))を中心に約一七〇立方メートルを出品しました。

ウッドショックの影響もあり、三層柱材中心に高値で取引され、立方メートル単価が四万円を超える物件



木曽ひのき (東濃) PRの様子



トチノキ4m×84cm 約51万円/m³

もありました。また、ヒノキのほか、サクラ等の広葉樹も出品しましたが、中でも目玉となったのが、トチノキ(加子母裏木曽国有林産)の太木です。元玉は四メートルの末口径八四センチメートル、二番玉は三・八メートルの末口径七四センチメートルなど、素材材積の合計七・二〇一立方メートルが、約二百六十万円(税抜)で販売されました。今回の入札参加者は郵便の預け札を含め約六十名、総額六千八百万円の売り上げとなり、うち当署の販売額は八百万円となりました。今後も、計画的・安定的な木材の供給に努めるとともに、多様な樹種の出品や的確な時期の木材など、有利販売に努めていきたいと考えています。





生産性向上実現プログラムジャンプアップ勉強会の様子（中部局会場）

生産性向上実現プログラム ジャンプアップ勉強会を開催！

【資源活用課】

十二月七日、中部森林管理局大会議室において、「生産性向上実現プログラムジャンプアップ勉強会」を二三会場（林野庁・東北局、関東局・四国局・中部局・署等）をインターネット回線で結び、全会場合わせて二七〇人が参加し開催しました。

当局では、林業事業者や研究機関、県、市町村等と連携し、林業における低コストで高効率な生産性向上を目指し、「生産性向上実現プログラム」を進めてきました。

平成二十七年度から令和元年度までの五年間の取組を総括する形で令和二年二月、八月、令和三年二月に計画しましたが、いずれもコロナ禍で中止となりました。今回ようやく開催に至ったものです。

本勉強会では、「五カ年の取組結果と今後の展望（中部局）」、令和元年度林野庁国有林間伐・再造

林コンクール優秀賞「生産性向上の取組とICTの活用（北信州森林組合）」、本取組のアドバイザーによる「作業動画と作業日報から考える標準作業について（岐阜県森林文化アカデミー）」、「路網密度と集材距離（長野県北アルプス地域振興局林務課）」、「生産性向上について（Global改善360）」、「素材生産におけるサプライチェーンの構築について（郡上森林マネジメント協議会）」の五つのテーマで、節目の報告がありました。

報告後の意見交換では、今後の取組方法に係る意欲的な意見や質問が出され、会場及びウェブを通じて活発なやりとりがありました。

この取組には述べ二千人余りの関係者が関わり取組が進められてきましたが、今後は令和七年度に向けて、さらに地域の事業者の生産性向上の底上げを図るため、局署挙げて取組を進めていくこととされています。

《各地からの便り》

令和4年1月

【北信森林管理署】
ドローンによるクマの剥皮被害木の自動抽出現地検討会を開催



十一月十日、信濃町霊仙寺山国有林において、「ドローンによるクマの剥皮被害木の自動抽出」現地検討会（主催：北信署、信州大学）を開催しました。この取組は、信州大学との連携と協力に関する協定に基づき国有林のフィールドを活用し、ICTによるスマート精密林業技術の開発を行っており、今回の検討会もその一環となります。

近年、当署管内では、クマによる剥皮被害が増加傾向にある中、人々による現地調査では、被害の全容を掴むのは困難となっています。そこで、信州大学から、上空からのドローンによる空撮画像を用いて、AIに被害木の特徴を学習させ、クマの剥皮被害木を自動抽出する技術を活用する提案を受けました。

この技術が実用化されれば、広範囲に亘る被害状況の把握を速やかに行えるため、クマ剥ぎ対策の実施や、今後の施業方法の検討な



ドローンによる調査画像を写したPC



ドローンによる上空からの撮影
(茶色部分がクマの剥皮被害木)

ICT化による林分被害の把握といった現地調査の省力化はコスト削減等のメリットが大ききことから、今後の改良と導入が期待されます。

どへの活用が期待できます。当日は、林野庁経営企画課の島田課長補佐をはじめ十四団体四十名が参加し、ドローン撮影の実演が行われ、この技術の活用方法等について活発な討論が行われました。

令和三年度ニホンジカ食害
防除対策検討会を開催



【森林技術・支援センター、岐阜森林管理署】

十二月八日、岐阜署管内の七宗国有林及び七宗町神測コミュニティセンターにおいて開催した「ニホンジカ食害防除対策検討会」に、岐阜県の名農林事務所等や七宗町・下呂市の林務担当者、当局の職員三十二名が出席しました。

当検討会は、ニホンジカの生息域の拡大に伴って、植栽木の食害被害が深刻化の一途をたどる中で、その被害が再造林への大きな障害となっていることから、民間が連携し、その被害防除対策に一体となって取り組むことを目的に平成二十八年年度から岐阜署と共同で開催しています。

午前は、岐阜県森林研究所主任研究員に「ニホンジカ対策の現状と課題」についての講演をいただきとともに、中部局管内の獣害対策の取組等について、当局の担当者が事例紹介を行いました。



民有林担当者のくくり罠設置体験状況

午後は、七宗国有林内の「獣害対策展示エリア」へ移動し、設置してある開発中のものを含めた各種の罠等について、岐阜署及び当センター職員と開発メーカー担当者説明を行い、多数の出席者にくくり罠の設置を体験していただきました。

当センターでは、外部の有識者等と連携して、引き続きニホンジカ食害防除対策に取り組んでまいりたいと考えています。

木曾谷地域の

ニホンジカ対策を検討

【木曾森林管理署】

十一月二十四日、長野県上松町おがわいり小川入国有林内の「忌避剤散布地」「防護柵設置箇所」の植栽地において、被害対策の現状を確認し、植栽木の保護という視点から、今後の対応や問題点などを検討する場として当署・南木曾支署及び長野県木曾地域振興局林務課と共同で「木曾谷地域のニホンジカ対策現地検討会」を開催しました。また、管内町村の獣害対策担当者、企業も含め三十二名が参加しました。

近年、ニホンジカは木曾地域においても個体数の増加や生息区域の拡大の傾向が見られます。今のところ大きな被害は少ない状況ですが、今後、被害の拡大は懸念されています。

検討会では、アドバイザーの長野県林業総合センターの柳澤研究員から、長野県の現状や現地での状況を確認しながら、防護柵、単木保護資材、忌避剤のそれぞれの



忌避剤散布を体験する参加者

メリット・デメリットについて説明がありました。また、サンケイ化学株式会社からは、硫黄が主成分の忌避剤の使用方法の実演などを行っていただきました。

木曾谷ではニホンジカよりクマの皮剥ぎ被害に関心が高い状況ですが、今回の検討会でニホンジカに対する認識の共有を図ることができました。

今後はニホンジカの分布や個体数推移を見ながら、状況に合わせて対応していくことや個体数調整も併せて取り組んでいくことが大切であると感じました。

木曾の国有林見学会の開催

【木曾森林ふれあい推進センター】

十月二十九日、長野県上松町の赤沢自然休養林において、木曾川下流域の方々に木曾地域の林業の歩み、木材輸送、名古屋市熱田区の白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の出材地について学び、「四百年の歴史」を体感し、森林とふれあっていたることを目的に「木曾の国有林見学会令和三年度秋季」を開催したところ、名古屋市を中心に二十一名の方に参加していただきました。



森林鉄道丸山渡停車場で木曾五木（ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ）の説明の様子

当日は、秋晴れの穏やかな天気の中、花村名古屋事務所長の歓迎の挨拶の後、職員の案内で森林鉄道に乗り、四班に分かれ林内散策を行いました。現地では、昭和六十年に行われた第六十一回伊勢神宮の式年遷宮の御杣始祭での御神木の伐倒の様子などをタブレットにより紹介しました。

参加者からは、「天気が良く紅葉もきれいでよかった」、「何度も訪れているが説明を聞いてより理解が深まった」、「新型コロナウイルスの感染状況でどうなるかと心配したけど開催されてよかった」との感想が寄せられました。



タブレットを用いて解説している様子

キツカケ沢復旧 治山工事現地見学会

【南信森林管理署】

十一月二十二日、長野県富士見町西嶽及び編笠山国有林において、平成三十年十月一日の台風二四号に伴う豪雨により、国有林内のキツカケ沢において土石流が発生し、富士見高原ゴルフ場、県道四八四号などに大きな被害をもたらしました。このキツカケ沢復旧治山工事の現地見学会を地元住民及び関係者約五十名が参加し開催しました。



令和3年度施工箇所見学の様子

はじめに、名取重治富士見町長より挨拶をいただき、その後、令和元年から二年までに完成した箇所と令和三年度の治山工事箇所の見学を行いました。完成した施工箇所においては、土石流によりキツカケ沢の溪流部が閉塞したことにより右岸側の溪流が浸食され決壊し土石流がゴルフコースへ流出した箇所に施工した谷止

【工事現場トピックス】
当施工箇所の上流には編笠山登山道沿いの景勝地「盃流し」があり、その付近に設置されていた犬養毅（元首相）及び小川平吉（富士見町出身で司法大臣や鉄道大臣などを歴任）の書を刻んだ記念碑がありました。土石流災害により行方不明になっていましたが、八月三十日、偶然に二つとも作業中に発見され、工事現場外へ移動することができました。地元乙事地区の関係者及び住民は、「発見されて良かった」と喜んでいました。



偶然発見された石碑

工、護岸工は流路が固定され今後の土石流災害の未然防止を図るとともに、令和三年度施工箇所では、現在実行中の谷止工二基の施工により上流の不安定土砂を下流へ流下させないようにしていると説明をしました。

参加者からは「国有林の現場を見る機会ができて良かった」、「自然の驚異を見ることができた」、「災害復旧の大変さを再認識した」等の意見が出されました。

引き続き、現場見学会の開催を通して、国有林野事業への理解、防災意識の向上に努めてまいります。

中部ブロック 林業成長産業化 構想技術者育成研修を応援

【森林技術・支援センター】

十一月十六日から十九日の四日間、下呂市及び七宗町において今年度の中部ブロック林業成長産業化構想技術者育成研修が開催され、中部局及び近隣六県から十一名の受講者が参加し、当センターが研修運営の応援にあたりました。

中部ブロック研修では、現地実習や演習を通じて実践力を養うことをテーマとしたカリキュラムを実施しており、第一日目には、外部講師による地域特性に応じた森林づくり構想の講義等を受講しました。第二日目は、岐阜署管内の七宗国有林で、森林現況の把握及び路網計画の検討と併せ、UAV（ドローン）による森林資源調査等の実習を行い、第三日目は、各班で実際に路網・森林整備・木材生産の各事業計画と林業成長産業化のための戦略を練り、第四日目には、その検討結果を班毎に発表し



路網計画の作成演習状況

質疑応答を行いました。「最新技術や各種ソフトを活用して、市場のニーズに応じたサプライチェーンを含めた戦略や構想作りのノウハウを学習でき満足した」といったアンケート調査票が提出されるなど、受講者からは高い評価をいただきました。当センターでは来年度以降も当該研修の現地スタッフとして、研修の運営をサポートしたいと考えています。



～飛騨署で、インターンシップ～



トウルーパールスで樹高を測定

調査データの入力方法等について若手職員から指導を受けている様子

輪尺で樹木の太さを測定

丸太の検知（直径を測定）

苗木の植付幅の測定

若手職員が中心となって、 高校生の就業体験を実施



【飛騨森林管理署】

十一月十一日から十二日までの二日間、岐阜県立飛騨高山高校環境科学科二年生の生徒二名をインターンシップとして受け入れました。

今回は当署若手職員が中心となって、実習内容の企画から現地での指導を行いました。

初日は、当署の概要、国有林野事業の業務内容等を担当者から説明を受け、その後、現場で間伐木を選定し、その樹種、材積、材質などを調べる収穫調査を行いました。

この収穫調査では、林内にひし形のプロットを設定しトウルーパールス（レーザー距離計・樹木の高さを測る器具）や、輪尺（立木の太さを測る器具）等を使用し調査を行いました。

その後、署に戻り間伐作業を行う意義や、間伐の調査の進め方などを学び、現地で測ったデータを

パソコンに入力し、プロット内の材積等を算出しました。

二日目は、間伐を行っている現場で立木の伐倒、高性能林業機械による丸太の玉切りを見学し、その後治山工事を行った箇所へ移動し、治山事業の意義などを学びました。

また、苗木の植付作業が終了した造林地では、契約書で指定した植え幅になっているか、苗木の間隔を測り確認しました。

最後に丸太を集積している土場で丸太の材積を計測するために行う、丸太の検知体験（検知・丸太の樹種、太さ、長さ等を調査し、その数量を確定するもの）を行い、二日間の日程を終えました。

生徒からは「学校で習った仕事内容もあったが、ほとんどが初めて行うことばかりで大変だったが、新たな知識を覚えたり得たりすることができた」などの感想が寄せられました。

今回のインターンシップでの体験が、少しでも生徒の将来の夢に役立つことを期待します。



園児を招いて
森林教室を開催

【中信森林管理署】

十二月十三日、当署において、松本市堀米保育園の年長園児十八名を対象に森林教室を開催しました。

はじめに、ウサギやコアラなどの顔の形に見える冬芽を紹介しました。顔に見えるところは、落葉した葉の柄が付いていた後で、バラエティーに富んだ様々な冬芽の顔は、園児たちにも大好評でした。

次に「？」ボックスの中身を当てるゲームを行い、園児たちは好奇心と恐怖心の中で恐る恐る箱の中に入れていました。中身はトナカイではなくニホンジカの角で



「？」ボックス 中身は何？

最後に「アルソミトラ」の種の模型をつくり、みんなで飛ばしました。限られた時間ではありませんでしたが、有意義な森林教室となりました。

職員が事前に園児の名前を焼きこてで土台に書いておいたので、自分の名前が呼ばれると大きな声で返事をして受け取り、様々に模様を着色したり、ビーズ等でデコレーションするなど楽しんでいました。出来上がったミニツリーは保育園のクリスマス会まで、展示するそうです。



ミニクリスマスツリーの作製

したが、普段触ることのない角を見て大歓声が上がりました。続いて、松ぼっくりでミニクリスマスツリーづくりチャレンジしました。

遊々の森の森林教室を開催

【南信森林管理署】

十一月十八日、長野県富士見町西嶽国有林内に設定している「遊々の森」(名称：多摩市民の森・フレンドツリー)において、多摩市立八ヶ岳少年自然の家主催の森林教室が開催されました。今回は、東京都多摩第一小学校の児童一二四名を対象に、当署職員も参加し、プログラムを提供しました。

この「遊々の森」は、多様な体験活動を通じ森林の大切さを学習する場として、平成十七年、多摩市長と当署長との間で協定を締結しました。多摩市立八ヶ岳少年自然の家(富士見町)では、毎年春から秋にかけて、遊々の森を活用した森林教室などの取組を行ってまいります。



間伐の目的や作業説明を行っている様子

当日の森林教室では、間伐体験をグル

ープに分かれて行いました。はじめに、間伐木を伐倒する体験を行ったところ、木が倒れる瞬間の大きな音と迫力に驚きの声が上がりました。



間伐木を切っている児童

その後、枝を払い、さらに丸太に切ったりする作業を互いに協力しながら行いましたが、手鋸の使い方慣れないことから、悪戦苦闘しながらも、初めて行う丸太切りなどを楽しんでいました。

児童からは「林業の仕事の大変さが分かった」、「木材が想像よりずっと重かった」などの感想を聞くことができました。

今後も「遊々の森」活動への協力を通じた、森林環境教育の推進に努めてまいります。



木曽ヒノキの天然更新試験

「木曽ヒノキを学ぼう」
 お出掛け合同 OJT (in 木曽)

【南信・木曽森林管理署】
 十一月十一日、若手職員等を対象に木曽ヒノキ林と原木(丸太)の出材状況を学ぶことを目的に南信署と木曽署合同で、お出掛け OJT を実施しました。

午前の部では、木曽署池戸次長を講師に赤沢自然休養林内のヒノキ人工林において、ヒノキとサワラの見分け方や天然木である木曽ヒノキとの違いを比較するため、目測による樹形の日慣らしなどを行った後、いよいよ天然木曽ヒノキの生育地(天然更新試験・森林の伐採後、植栽を行わず、自然に落下した種子から樹木を育成させること)へ向かいました。



木曽ヒノキ大径材の説明

途中、赤沢の木曽ヒノキ美林が成立した歴史的背景や木曽ヒノキを伐採後、現在の稚樹(若芽から生長したばかりの樹木)等が成立している状況の説明や赤沢の特徴でもある「シロモジ」や「アスナロ稚樹」との相対関係と天然更新の難しさなど熱心に耳を傾けました。

午後の部では、三井企画官を講師に、王滝村の水ヶ瀬土場にて、木曽ヒノキをはじめ、天然林から出材された丸太の出材・公売状況等について、説明を受けました。

注目されたのは、今年話題になった「鬼滅の刃」でお馴染み「ねずこ(樹種名です)」は、二年ぶりの出材で木曽署管内でも貴重とのこと。また、木曽ヒノキの中でも、特に大径材や長材・無節材については、伊勢神宮等への特殊用材として、供給されるなど木曽地域ならではの取組を知ることができました。

南信署管内にもヒノキの人工林生育地はありますが、木曽の森林(天然林)を初めて目にする職員も多く、改めて見識を深めることができました。また、初めて署間を越えた若手職員の合同 OJT を実施しましたが、職員間の交流も深まる良い機会となりました。



ヘリコプターの飛来!!

さらに土場構内を見学中には、折しもヘリコプター集材用の機体が隣接地に飛来するといったうれしいサプライズもありました。



タイヤチェーンの装着の様子

【木曽森林管理署】
 十一月十八日、降雪期を前に雪道運転の注意点など、若手職員を対象に講習会を行いました。

はじめは、タイヤチェーンの装着方法について、金属製チェーンの裏表や、フックの止め方など先輩職員の実演を見てから行いましたが、車体とタイヤの狭いスペースでの作業に苦労していました。

最後にタイヤチェーンを装着した車両を実際に運転し、その走行時の振動や騒音など、非装着時との感覚の違いを体感しました。

今後は、降雪の状況を見て、さらに雪道の走行実習を行い、安全な運転技術の向上を目指すこととされています。

雪道走行を前に講習会を開催

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【北信森林管理署野沢森林事務所】

森林官

小林 美緒

野沢森林事務所は、長野県下高井郡野沢温泉村に所在し、森林官一名と非常勤職員二名の体制で業務を行っています。管轄地域は飯山市、野沢温泉村、栄村に所在する国有林約四、四八〇ヘクタです。



夏の野沢温泉スキー場と関田山脈

その中で特色あるエリアの一つは、野沢温泉村の東部、毛無山の北側に広がる国有林です。野沢温泉スキー場やスタカ湖キャンプ場があり、夏にはトレイルランの大会が開催されるなど、四季を通じて行楽客が訪れます。そのため「こんなことがしたい」と相談が寄せられることが多く、署の担当者との連携しながら丁寧に対応するよう心掛けています。

また、野沢温泉村といえは毎年一月に火祭りとして有名な道祖神祭りが行われますが、社殿を造るのに用いられる木材を国有林からも供給しています。ブナ林の一部を「道祖神祭りの森」として設定しており、今年度も十月に木が伐り出されました。スキー場から少し離れた場所にはスギ人工林も多数あり、今年度は間伐事業と造林事業(下刈り)を実施しました。こうした事業の監督も森林官の仕事です。



道祖神祭りの社殿

もう一つ特色あるエリアとして長野県最北端、新潟県との境に連なる関田山系の稜線部に沿って細長く延びる国有林があります。稜線には信越トレイルが整備され、NPO法人信越トレイルクラブ、関東森林管理局上越森林管理署、北信森林管理署で協定を結び、維持管理が行われています。コロナ禍で訪れる人が増えたそう、今年度も大きなバックパックを背負ったハイカーをよく見かけました。ブナの森として知られる鍋倉山もあり、静かで気持ちのいい時間を過ごすことができます。ぜひ訪れてみてください。

■未来の担い手へのメッセージ
林野庁の業務内容は非常に幅広く、異動・転勤も多い職場です。しかしその分様々な経験ができ、



信越トレイル



森林事務所 (筆者)

色々な森林や人と関わりながら知見を広げていけるのは面白いと思います。森林に関わる仕事に興味のある方は、ぜひ林野庁のことを調べてみてください。



家具職人のお爺さん

米ニューヨーク州出身で、山間部で育ちました。子どもの頃から大学卒業まで、お爺さんの家具製作工房のお手伝いやアルバイトを行っていました。

■自己紹介



タートル バリー トイズ
Turtle Valley Toys
玩具・家具職人
スコット ウォラック
Scott Wolak

「愛と木で作るおもちゃ屋さん」

シリーズ

「私の木語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



一九九一年、石川県に留学生として一年間生活し、その後、アメリカの大学を卒業し、英会話の講師として再来日しましたが、登山の魅力に取りつかれ、二〇〇二年奥穂高岳(岐阜県)の穂高岳山荘に就職。約十一年間雲の上の設備主任(主に大工仕事)として働きました。山小屋での生活は、一年の半分以上妻と生まれたばかりの娘に会えなかったこともあり、二〇〇一年に富山市に移り住み、現在、自然豊かな立山山麓の小さい工房で、家族三人で生活をしています。

■活動内容

英会話講師の仕事と兼務しながら、工房「タートル・バリー・トイズ」で、「愛と木で作るおもちゃ屋さん」をテーマに子どもの玩具と家具を製作しています(工房のテーマは、奥さんのアイデア)。おもちゃ作りを始めたのは、娘に喜んでもらうため。最近は、一緒

に遊んでもらえないのが残念。おもちゃはシンプルで、子どもたちが自分の想像力を学び、活用できるものを心掛けて作っています。

Turtle Valley Toys



木製スマートフォン iPhone



ナンバーズ



ドールハウス



料理3点セット(包丁、まな板、赤巻)

「安心・安全」を第一に、おもちゃの塗装剤は、赤ちゃんが万が一舐めても安全な材料を使用し、森林組合から県産材の立山杉を仕入れて使用しています。立山杉にこだわったのは、「材質がやわらかく、手触りがとても良いなどの理由からです。」

また、昨年からは毎月一回、親子木工体験などのワークショップな



親子木工体験教室の様子
(地区の子供会)

ども行っています。親や子どもの喜ぶ顔を見ると私もとても楽しくなります。長く継続したいですね。

■メッセージ

地域の工房として、「子どもたちの木育に繋がるような、おもちゃを考案したい」、「たくさんの人たちが、この工房に遊びに来てほしい」、当面は、英会話の先生と工房の二刀流で頑張ります。

○連絡先

〒九三〇一四五九

富山県富山市亀谷六一五二二

Tel. 〇九〇一六八一〇一六六六五

✉ turtle.valley.toys@gmail.com

ホームページ

https://www.turtle-valley-

toys.com/



設定目的

戸隠山麓にはアカシヨウビンをはじめ、三四科一〇三種の鳥類の生息が確認され、多種多様な野鳥が豊富に生息するとともに、スギ、カラマツの人工林とハルニレ、ヤチダモ、シラカバ、ウラジロモミ等から構成される天然林があります。
これらの生物群集を有する森林の保護・管理をするために設定しています。

地況・林況

全域が起伏の激しい岩石地帯となっています。戸隠山を中心に、南西に西岳、北に五地藏山、高妻山、乙妻山の稜線部とそれを囲む岩稜線地帯で構成されており、特に戸隠から西岳連峰の東側は大絶壁となつて怪異な姿を示しています。

標高一、六〇〇〜一、九〇〇付近にはブナ林、ダケカンバ林、そしてその上部は高山性の露岩植生となっています。

山麓に位置する戸隠森林植物園一带は「小鳥の森」と呼ばれ、野鳥の宝庫として知られています。ハルニレ、ヤチダモ、ハンノキ、ブナなどの天然林、シラカバやミズナラなどの二次林、スギ、カラマツなどの人工林、多数の湿原や池など多様な環境があり多数の野鳥の生息・繁殖を支えています。

野鳥の楽園

とがくしやま
戸隠山 生物群集保護林



アカシヨウビン



コゲラ



サメビタキ



ゴジュウカラ

所在地
長野県長野市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

中部の保護林(第9回)

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第9回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

「雪ゾリ」

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

寒い冬の野外での仕事は辛いものですが、林業ではむしろ雪が降ってから行われ



大正時代末頃のソリ運材（現在の木曽森林管理署管内）

る作業もありました。ササや灌木が生い茂った山に出入りするのは容易なことではありませんが、雪が積もればその上を通ることができません。また雪ゾリを使うことで、道が無くても木材を運び出すこともできるようになるのです。



昭和三十年代前半の手ゾリ運材（現在の飛騨森林管理署管内）

雪の高さの分、伐採する位置が高くなったり、雪を掘る作業も増えたりもしますが、雪上に伐倒したほうが樹木が傷みにくく、ブナなどの広葉樹は、菌による腐れや変色を抑えられるという利点もありました。



昭和30年代後半の馬によるソリ運材（現在の飛騨森林管理署管内）

雪ゾリにも人が曳くもの、飛騨地方で見られた手ゾリ、馬に曳かせるもの、積雪量や雪質による使い分けなどで幾つもの種類がありました。林業の機械化と自動車の普及によって次第に消えていくこととなります。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



農林水産省公式YouTubeチャンネル

BUNZ MAFF (ばずまふ)

中部森林管理局管内の撮影

第二弾！が公開されました。

【山のきのこ盛りだくさん！】

山の中で栽培する原木栽培のナメコ。傘が開いて大ぶりのナメコは普段スーパーで見えるものとはかなり見た目が違います。肉厚で触感はおぶりぶり！大変美味なのです。

そんな原木ナメコを紹介するため、BUNZ MAFF チームもリルは長野県野沢温泉村へ取材に行ってきました！



ナメコを栽培している門脇秋彦さんに森の中を案内してもらいながら、ナメコに似た毒きのこや、食べられるけどおいしくないきのこなど、いろいろなきのこを取材しました！ぜひ、動画をご覧ください。

【BUNZ MAFFとは?】

農林水産省職員自らが、省公式YouTubeチャンネルでYouTubeuberとなるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです。



林野庁提供の「もりリルのチャンネル」の登録をぜひお願いします。

令和四・五年度 国有林モニターを募集します

【企画調整課】

中部森林管理局では、令和四・五年度の「国有林モニター」を募集しています。

「国有林モニター」制度は、管内四県富山県・長野県・岐阜県・愛知県にお住まいの皆様、国有林が果たしている役割や現状をご理解いただくとともに、国有林に対するご意見等を直接伺い、今後の管理経営に役立てていく取組の一つです。

募集人数 三十名

依頼期間 二年間

依頼内容 ①アンケート調査への回答、②ご意見、ご要望等の提出、③モニター会議、現地見学会への出席(旅費のみ支給)

応募資格 管内在住の満十八歳以上

(令和四年四月一日時点)の方

応募方法等 ホームページの専用申込フォームよりご応募ください。

(郵便はがき、FAXも可)

※応募フォームについては、下のQRコードを読み込んでください。



【応募締切】

令和四年二月二十一日(月)必着

お問合せ先

企画調整課 国有林モニター担当

電話 〇五〇一三三六〇一八五〇八

FAX 〇二六二二二六二二六五七

その他 これまでの活動内容については、ホームページをご覧ください。

※活動内容については、TOPページをご覧ください。

※活動内容については、TOPページをご覧ください。



国有林モニター現地視察の様子



※令和二・三年度においては、コロナ禍により現地視察は中止

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migor@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

新年明けましておめでとうございます。コロナ禍の中、昨年よりは多少賑やかな年末年始だったのではないのでしょうか。新年といったら、やっぱり縁起を担いで初笑い！今年は寅年！とら(りゃ)〜と駄洒落で始めさせていただきます。「虎の年頭あいさつ！明けましておめでとうタイガー」、「大トラが叫ぶ！飲みタイガー」、「感謝する虎！ありがタイガー」、「頑張る虎！トラいます！」、「大きい！に住む虎！タイガー(大河)」、「虎が出演！大河ドラマ」、「旅行する虎！トラベル」、最後に…「今年もいい笑ガオーの年にしましょう！」おっ〜と！1本トラれた〜！もう〜ネタ切れ。お粗末様でした。(。)_☆

中部の森林では、本年も魅力ある紙面作り心掛けて、充実を図っていきます。皆様の1年が豊かで健やかでありますように。本年もよろしくお願いたします。

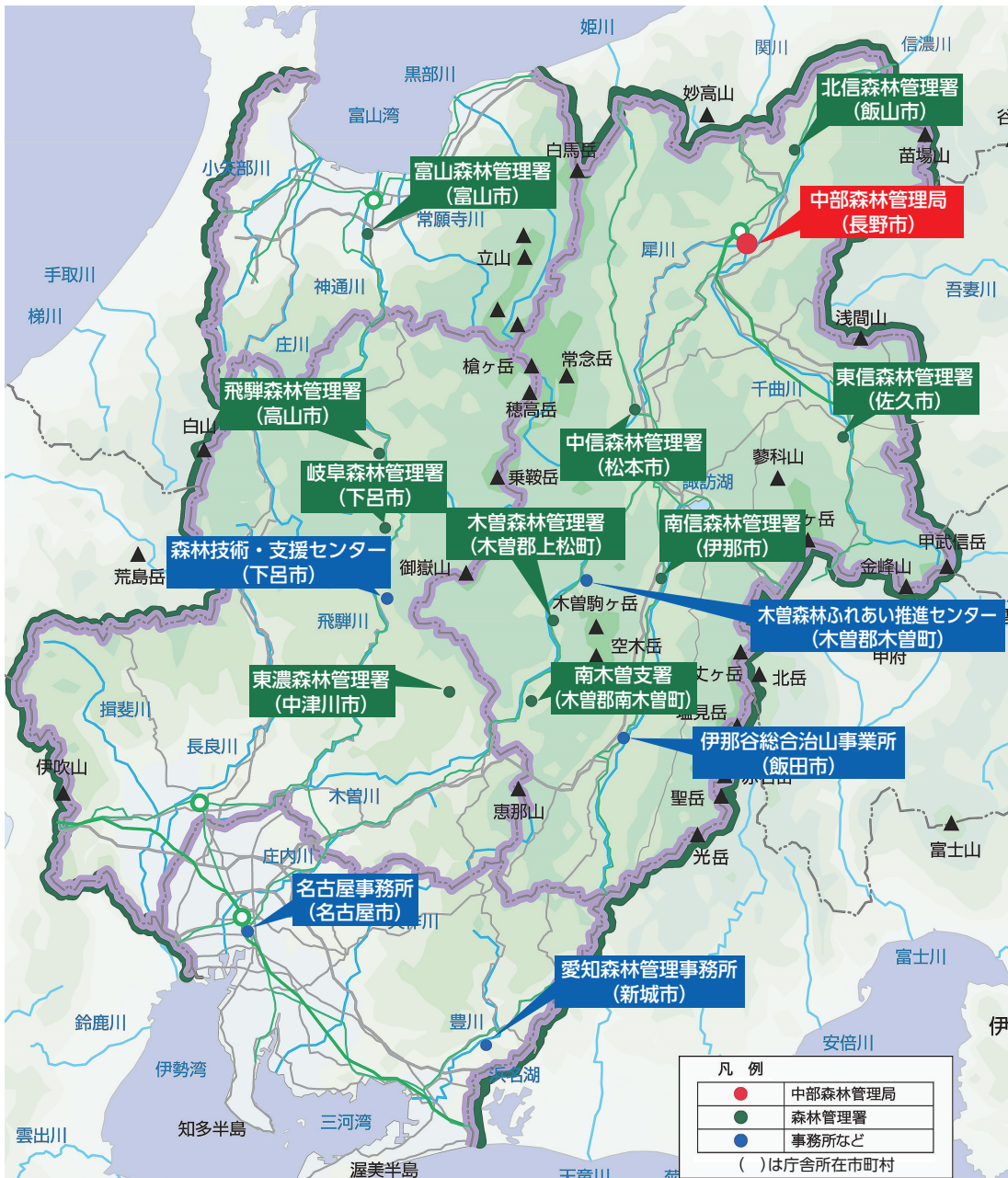
新年も、いつでもお気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジ森(もり)」で、美しい風景をご覧ください。



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



2. 「一人ぼっちのぶな」(北信署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ



広報
「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。